

「日々の理科」(第 4189 号) 2026,-1,28

「山梨県扇山の山火事（3）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山火事の起きた「扇山（おうぎやま）」は、標高こそ低いものの、関東山地の秀峰と言えます。写真でもわかるようにかなり独立峰に近く、山頂付近からの眺望が良いのです。関東山地の山々、御坂（みさか）山塊の山々、三つ峠、それに富士山の好展望地です。



根拠地（登山口）は四方津駅、鳥沢駅、猿橋駅で、いずれも中央本線の小駅です。私が行った日に煙を上げていたのは、鳥沢駅と猿橋駅の中間付近でした。私は猿橋駅で下車、そこから大きく迂回して一つ高尾寄りの鳥沢駅まで約 8km を歩くことにしました。



「猿橋駅」の名称の由来は桂川（相模川の上流）に架かる「猿橋」という橋の名です。「日本三大奇橋」の一つとされます。当の猿橋は駅から遠く、ほかに目ぼしい観光地もないで、特急は全列車通過です。その特急の車両越しに、火災の煙が見えました。



跨線橋に上がると、火災の煙がよく見えました。ちょうど地元の方（ご年配の女性）が、「煙よく見えるでしょう？毎日こっちに近づいてくるのよ」と、心配そうに話していました。その「近づいている」という感覚は、火災範囲移動の事実と合致しています。



駅には「山火事予防」という古いポスターが掲示されていました。「忘れない 山の恵みと 火の始末」という標語が、ちょっと虚しく見えました。



改札前には「注意喚起」の新しい立札がありました。こんな山火事の時に好き好んで登山する者はいないと思いますが、一応「ダメですよ」という注意喚起は重要でしょう。今回私は「入山」の予定はないのですが、近づき過ぎないように注意しようと思いました。